

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4070000254
法人名	社会福祉法人 育心会
事業所名	グループホーム 白梅の里
所在地 (電話番号)	福岡県京都郡みやこ町犀川久富1616番地 (電話) 0930 - 42 - 0637

評価機関名	株式会社アーバン・マトリックス		
所在地	福岡県北九州市小倉北区紺屋町4-6 北九州ビル8階		
訪問調査日	平成20年9月20日	評価確定日	平成20年10月25日

【情報提供票より】(平成20年9月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成11年8月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	7 人	常勤 2人, 非常勤 5人, 常勤換算 4.2人	

(2) 建物概要

建物構造	木造瓦葺造り 1階建ての1階部分
------	---------------------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	5,800円	その他の経費(月額)	(生活費)16,000円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
または1日当たり 600円				

(4) 利用者の概要(9月1日現在)

利用者人数	8名	男性	0名	女性	8名
要介護1	4名	要介護2	2名		
要介護3	2名	要介護4	0名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 87.9歳	最低	80歳	最高	95歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	吉永病院 / よしなが歯科医院
---------	-----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホーム白梅の里は、白梅の名前通り、春には白梅を堪能できる、自然豊かな環境を有している。グループホーム白梅の里は、民家を改造した木造平屋造り、昔を偲ぶ、なつかしい格子戸の玄関があり、墨で書かれた手作りの看板が掲げられ、ホーム全体に落ち着いた雰囲気が漂っている。共用空間は和室で椅子やソファが置かれ、ゆったりと過ごすことができる工夫がある。管理者・職員のチームワークもよくホーム全体がアットホームで和やかな雰囲気に包まれている。地域との連携もできており、盆踊りはホームの庭で行われるなど、地域の中で自然に溶け込んだ交流・ふれあいが行われている。管理者・職員は、入居者のこれまでの暮らしを尊重し、畑づくりや食の智恵などを活かし、互いに暮らしを支える関係を築いている。管理者・職員の穏やかな対応が入居者の優しい表情にも読み取れ、これまでの暮らしの延長を日々支援していくホームの姿勢を感じることができたグループホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価の主な改善課題は、各書類の整理 当施設の看板設置とわかりやすい地図の作成 防災対策・消防署との連携が挙がっていた。改善課題については個人ファイルの作成や消防署との連携など、取り組める課題に関して徐々に取り組んでいる。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価により、日々のケアを振り返り、今後取り組む内容などを把握し、ケアやサービスの質の向上に向けて取り組んでいる。
重点項目	運営推進会議の主な検討内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	定期的に2ヶ月に1回、運営推進会議を行っている。グループホームの現状や今後の方向性について意見を交換している。地域住民の代表から地域行事の情報を得て、敬老会・道路愛護会・運動会などに参加している。また、地域からの協力依頼があり、ホームの庭で地域の方を巻き込んで盆踊りを行うなど、地域との連携を図る機会となっている。運営推進会議では、汲み取りトイレの浄化槽の問題や外食・カラオケの提案など意見が出され、出された意見は運営面やサービスなどに反映している。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	「白梅の里」便りにて家族には、行事や暮らしの様子などを伝えている。面会や運営推進会議・行事の際に、家族に現在の入居者の状況を報告し、家族の意見や意向を把握するように努めている。また、電話連絡なども随時行い、家族との連絡・報告に努めている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目	ホームの周辺は民家が少ない状況にあるが、ホーム設立以前の住人の方が、近所の方と良好な関係にあり、ホームに対し違和感もなく、ホームを一軒家として受けとめていただき、日常的に新鮮な野菜の差し入れや散歩時の声かけなど自然な交流が行われている。また、自治区会に加入し、老人会の行事への参加や道路愛護のための缶拾いなど、積極的に参加している。グループホームの行事も地域へ案内し、地域住民の方に参加していただけるよう取り組んでいる。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念は、「自立支援 尊敬と共感 ケアサービスの確保」を掲げ、独自の理念をつくりあげているが、平成18年の法改正により、地域密着型サービスの役割を果たすことが求められ、現在の地域との取り組みを理念に加えることが求められる。		平成18年の法改正により、地域密着型サービスの役割を果たす理念の内容が求められ、地域との関係など現在の取り組みを理念に反映していく必要がある。(例、「地域との交流・ふれあいのもとで」など)
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員が理念を念頭において、会議やミーティングの際に確認し、理念の実践に向けて取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治区会に加入している。小学校の運動会・保育所との交流・神社の掃除・道路愛護のための缶拾いなど、地域との関係を大切に役割を担っている。今年は、地域との交流の取り組みとして納涼祭に地域の方にぜひを振る舞い交流を深めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の外部評価の意義を理解し、改善課題として挙げられた内容は、できることから改善に向けて徐々に取り組んでいる。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は定期的に2ヶ月1回開催されている。汲み取りトイレの改善や外食・カラオケの提案など出された意見は話し合い、サービスの向上に繋げている。また、「白梅の里」便りで家族の運営推進会議の参加を呼びかけ、運営推進会議で家族の意見や意向を出していただけるように取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	町福祉課との連携を密に行い、当ホームでの入居状況などの相談や意見交換を行っている。また、京築グループホーム連絡協議会に加入し、行政との連携を高めていきたいと考えている。		
7	10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人には、それらを活用できるよう支援している。	地域権利擁護事業や成年後見制度の利用はない。権利擁護に関する研修を受講する機会を設けていないため、今後、行政の研修情報などを把握し、受講できるように取り組んでいきたいと考えている。		今後、福岡県や町など権利擁護の研修情報を把握するなど、参加に向けて取り組むことを期待したい。
4. 理念を実践するための体制					
8	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	年4回「白梅の里」便りを発行し、行事や暮らしの様子などを伝え、電話連絡なども随時行い、家族との連絡・報告に努めている。家族に毎月1回、個々の様子を記した手紙を送付し入居者の暮らしぶりがわかるように報告している。		
9	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や運営推進会議の中で家族の意見を聞くコーナーを設け意見や意向を把握できるように努めている。「白梅の里」便りにて、家族には、運営推進会議の参加を呼びかけ、運営推進会議の機会を活かし、家族の意見や意向を更に把握できるように努めている。		
10	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	母体である法人は、特別養護老人ホームをはじめ、多様な高齢者ケアの事業を展開しているが、入居者と職員のなじみの関係を第一日に基本的に異動がないように取り組んでいる。また、離職などの場合は、入居者のダメージを考え、前もって職員と運営者が充分話し合える機会を設けるなど配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
11	19	人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している。	働く意欲があり、性別・年齢などは採用対象から排除していない。法人で人事考課制度を取り入れている。非常勤職員は管理者が個人面談を行い、本人の意思を尊重し働きやすい環境づくりを行い、自己実現できるようにサポートしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
12	20	人権教育・啓発活動	人事考課制度を取り入れ、法人で職員のレベルに応じた内部研修・リーダー研修を行い、職員のスキルアップを図っている。法人内の研修では、職員が課題を決め、その実践を発表するなど、職員の取り組みを評価し能力が発揮できるように取り組んでいる。		
		法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育・啓発活動に取り組んでいる。			
13	21	職員を育てる取り組み	人事考課制度を取り入れ、職員のレベルに応じた研修を行っている。また、内部・外部研修にも参加できるように取り組み、報告書を提出してもらい能力のレベルアップをサポートしている。研修受講に関しては、職員会議の議事録に記録があるが、研修記録として別に資料の保管・参加者氏名・伝達研修の有無などわかるように整理することが望まれる。		
		運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている			
14	22	同業者との交流を通じた向上	平成19年度から京築グループホーム連絡協議会に加入し、サービスの質を向上するべく情報の交換を行っている。今後は、地域への認知症の理解を高めるために連携を活かした取り組みを期待したい。		
		運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている			
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
2. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	馴染みながらのサービス利用	家族・本人からの相談や地域包括支援センターからの相談などにより入居いただいている。見学や1泊2日の体験入居・自宅訪問など、徐々にホームや職員に親しんでいただき、納得して入居できるように支援している。		
		本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気などに徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している			
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	本人と共に過ごし支えあう関係	時間の許す限り寄りそい、ゆっくりと過ごす機会を多く持つように努めている。入居者が落ち着かない場合は家族と連絡を取り、仏様参りに同行するなど入居者が落ち着いて過ごせるように支援している。ホームでは入居者が仏壇のお供えを替えたり、庭の草取り・畑づくり・豆の皮むきなど、できることを暮らしの中で自然に行っていただけのように取り組んでいる。		
		職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている			

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1.一人ひとりの把握					
17	35	思いや意向の把握	日常生活パターンの中で危険性の少ない家事として(野菜の皮むきなど)は行っているが、刃物類は取り組んでいない。これまでの暮らしの中で、できることを更に引き出し、どこまで対応できるかなど検討が望まれる。		フェースシートに家族との関係・生活歴・趣味などを更に深く掘り下げ、職員の情報の共有化を図り、本人のこれまでの暮らしの中での生きがいを介護計画に反映していくことが求められる。入居者一人ひとりの思いや意向を職員が共有し、残存機能の維持を図ることが期待される。
		一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している			
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	チームでつくる利用者本位の介護計画	本人・家族とは具体的な対応について話し合いを行い、一人ひとりに応じたプラン作成に努めているが、他の関係者との話し合いがあまり行われていない。		日々の職員の気づきや本人・家族からの情報収集などメモを取り、フェースシートへ記録していくなど、入居者本人の全体像を把握し、医療機関の関係者とも話し合い、介護計画に反映していくことが求められる。
		本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している			
19	39	現状に即した介護計画の見直し	3ヶ月ごとにプランの更新・変更を行っている。期間中に入院など状態変化があった場合は、現状に即した計画を作成し対応している。		
		介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している			
3.多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
20	41	事業所の多機能性を活かした支援	母体である法人が多様な高齢者ケアの事業を展開しており、法人の企画として、納涼祭や運動会など楽しみごとが多く、要望に応じて多彩な行事やアクティビティに参加できるように支援している。		
		本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている			
4.本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
21	45	かかりつけ医の受診支援	入居前からの主治医に受診できるように支援している。各主治医との連絡はできている。受診時は職員が同行し受診している。受診に関しては、医療連携加算がないため、家族の協力を得るなど検討が望まれる。		
		本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している			

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
22	49	重度化や終末期に向けた方針の共有	重度化や終末期はホームで対応できないことを入居前に家族に説明し了解を得ている。重度化した場合に、主治医・家族と今後の方針について充分話し合いを行い、同法人の特養や医療機関など対応できる施設を紹介している。		
		重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している			
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	52	プライバシーの確保の徹底	一人ひとりの個性を尊重し、言葉かけや対応に配慮している。法人の規程にそって守秘義務・個人情報保護法などを学んでいる。書類は一定の場所に保管・管理されている。		
		一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない			
24	54	日々のその人らしい暮らし	入居者の個々の生活ペースに合わせて、希望にそった支援ができるように声かけを行いながら、その都度柔軟に支援している。		
		職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している			
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	食事を楽しむことのできる支援	畑があり、じゃがいも・なす・ニラ・青ジソ・山芋などが収穫でき、食事の献立に活かしている。食事は職員の工夫により、季節感を味わい、美味しく食べていただけるように彩りなども工夫がある。職員は入居者のそばで声かけしながら、一緒に食事をしている。食材は近隣の農家の新鮮な野菜が差し入れられたり、地米のご飯は年間契約など、美味しく安心・安全な食事となっている。		
		食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている			
26	59	入浴を楽しむことができる支援	入浴の時間帯は毎日午後からと決めているが、本人の希望に応じて入浴できる。また、時間を問わず排便などの失敗の場合はシャワー浴を行っている。		
		曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している			

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	洗濯物干しや畳み・新聞取り・食事の際に使用するエプロン洗い・庭の草取りなど日々の暮らしの中で自然に役割を本人が担っている。「白梅の里」便りでは、入居者の特技である書を活かした紙面づくりなど、入居者の力が発揮できるように支援している。		
		張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている			
28	63	日常的な外出支援	外出の希望が多く、ドライブ・外食や散歩を支援をしている。地域の図書館や憩いの場・コンサートなども出かけ、季節を感じていただけるように、できるだけ外出の機会を増やす努力をしている。		
		事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している			
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	鍵をかけないケアの実践	鍵をかけずに自由な暮らしを支援していく方針があり、門に赤外線センサーを取り付け、日中に鍵をかけないように、職員体制や周辺環境(溝が多い)を考慮し、鍵をかけないケアの実践に努めている。		
		運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる			
30	73	災害対策	消防署との連携により、ホームでの避難誘導訓練を2ヶ月1回実施している。その都度、反省と感想の記録がある。		環境的に民家が少ないため、消防署の避難訓練の際には、地域の方に呼びかけ、協力していただけるように働きかけを期待したい。運営推進会議で地域の方の協力をお願いするなど期待したい。
		火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている			
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	栄養摂取や水分確保の支援	栄養のバランス・水分量など、看護師・栄養士の管理のもと、適正な摂取量を確保できるように支援している。食事は季節に合った地元で取れた新鮮な野菜を中心に献立が立てられている。夏期は特に熱中症への対応を考慮し、水分の補給ができるように工夫している。		
		食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている			

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	居心地のよい共用空間づくり	共有の空間にはテレビ・ソファーが置かれ、昔ながらの和風の良さを活かした空間となっている。共用空間は障子があり、夏は暑さをしのぐために障子を取り、冬は暖を取るため障子を利用するなど昔ながらの暮らしがある。また、神棚や天皇陛下の写真を飾るなど、入居者のこれまでの暮らし中で育まれた習慣などを大切に支援している。		
		共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている			
33	85	居心地よく過ごせる居室の配慮	居室のドアには表札が掛けられ、入居者が自分の部屋と認識できるように工夫がある。居室は使い慣れた家具や仏壇など、これまでの生活スタイルを崩さないように支援しており、布団やベットなど個別に対応しており、居心地よく過ごせる空間となっている。		
		居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている			